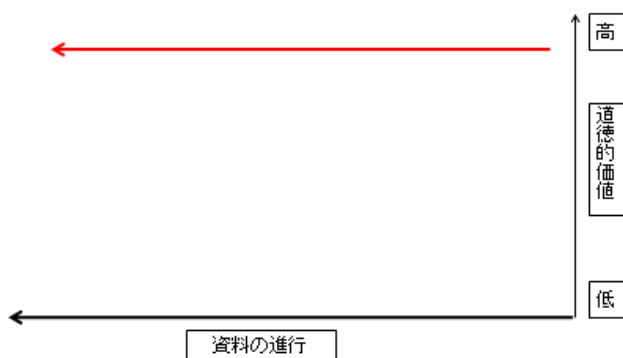


道徳資料の展開には、いくつかのパターンがみられます。それをもとに道徳資料を読み、併せて、ねらいとする道徳的判断力・心情・実践意欲を決め、授業の型や仕掛けを組み合わせることで、育てたい道徳性に迫ることができると思います。

よい子型



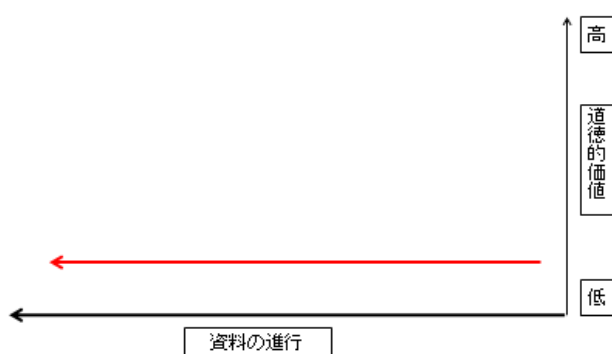
「森のゆうびん屋さん」
「六セント半のおつり」
「小川笙船」など

主人公は、終始、価値観の高い思いと行動を表しています。ただし、思いの変化が少なく、平板なものになりがちです。

そのため、授業では、揺さぶりをかけて、主人公が一貫してもっている価値観を考えさせることができます。

基本形・道徳的行為型・意義型・設定変更型

わがまま型



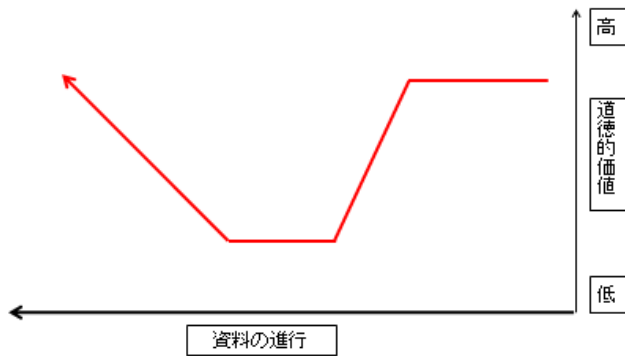
「るっぺ どうしたの」
「新次のしょうぎ」
「奪われた自由」など

逆に、主人公は、終始、価値観の低い思いや行動を表します。子どもは、そのことは分かっています。

授業では、子どもに、その価値観の低さを客観的に考えさせるなどして、それを超える心の力や、よりよい姿を考えるようにさせます。

基本形・意義型・問題解決型・討論型

反省型

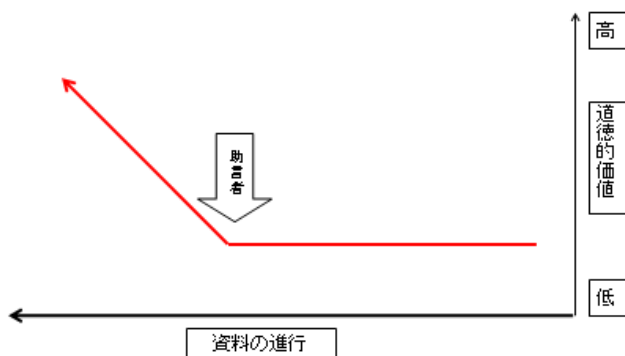


「およげない りすさん」
「心と心のあく手」
「知らない間の出来事」など

自分の行いを自力で反省し、よりよい行動を選択します。授業では、反省するところで一度切り、子どもが、自分ではどうするか、その後の行動を考えさせた上で、主人公の行動と比べて、主人公が取った行動の意義や大切さを考えさせます。

基本形・意義型・問題解決型・討論型

助言者・モデル型



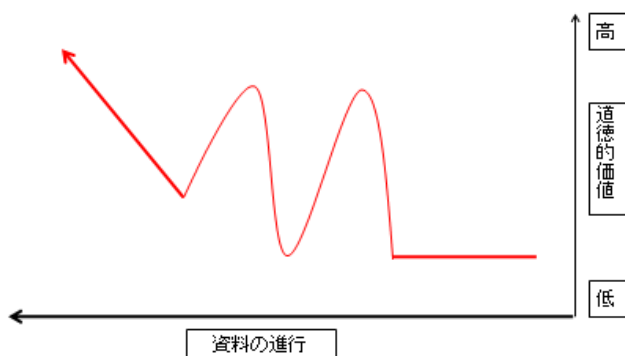
「はしのうえの おおかみ」
「ヒキガエルとロバ」
「窓ガラスと魚」など

主人公が、助言者やモデルの登場で、道德的価値観の低い行いに気づき、よりよい行動を取ろうとします。

授業では、助言者やモデルから学んだことや、よりよい行動を取った後の気持ちよさなどを考えさせます。

基本形・意義型・設定変更型

葛藤型



「ぽんたとかんた」
「少しだけなら」
「手品師」など

価値観の高低、同程度の価値観の狭間で、葛藤する主人公の場面で、一度切り、子どもに自分ならどうするかを討論させたり、よりよい行動を選択する際の判断基準を考えさせたりする授業が考えられます。

基本形・意義型・問題解決型・討論型